

ぼくと、かみさまのい  
る10月

ぼく

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ぼくは、かみさまと出雲にいった。

ぼくは、かえったけどまだ出雲にいる。

昔、暇潰しに書いたものの供養です。

# 目次

ほくと、かみさまのいる10月 | 1



# ぼくと、かみさまのいる10月

ぼくは、じんじやにむかつてはしつていた。

いえのちかくのむかしからあるふるいふるいじんじや。

じいちゃんのじいちゃんのそのまたじいちゃんのころからここにずっとあるんだつて。

いかなきやいけないりゆうは、ぼくにも、わからなくてただいかなくちやておもつてた。

きようは、ふしぎなてんきではれてるのにくらかった。

きつとまえにおとうさんがいつてた、にっしょくつてやつなんだろう。

神様がつかれてやすんじやうとなるんだつて。

ならきようの神様はつかれてるんだろうからすこしくらいけどがまんしなきや。

ずつとはしつてたらとおくにじんじやがみえてきた。

ぼろぼろでいまにもくずれそう。

まえ、じいちゃんにおしえてもらつたとりいつてやつもみぎのはしらがおれちやつてたおれてる。

とりいのまんなかは、神様のみちだからとおつちやいけないってばあちゃんがついてたけどはじつこはあぶなそうだし、だれもないからまんなかをおつちやった。

ぼくが、じんじやにつくとほんでんつとところのなかからだれかいないてるこえがきこえてきた。

こわかったけど、おそろおそろほんでんのとびらをあけるとなかでかみさまがめをあかくしてないていた。

かみさまに「なんでないてるの」ときいたらといずもからしようたいじようがこなかつたんだって。

かわいそうだから、ぼくがつれてつてあげるといとかみさまは、えがおでぼくにおれいをいった。

ぼくは、かみさまをつれていずもに行つた。ぼしよはかみさまがおしえてくれた。しらないからみちにしらないからぼしよ。

「こんなところにもりなんてあつたんだね」つていつたら特別な場所だからお父さんにもお母さんにもないしよにしてねだつて。

うん、ここはぼくとかみさまだけのひみつのぼしよだ。

いずもにつくと、たくさんの神様がいてその一人がぼくに気づいた。

その神様は、ぼくをたてもののなかにいれてくれて、ぼくは、いろんな神様とおはな

しをしてたのしかった。

そとがくらくらなくなってきたからいえにかえりたいていいたら、かみさまは、かなしそうなかおをしてずつとも一緒にここにいようといった。

でもおかあさんにおこられるのは、やだからぼくはあえるつていたら、かみさまはぼくになら帰る前にこれを食べなさいつておもちとのみものをくれた。

おもちはふわふわでのみものはしんねんのときにのんだあまざけみたいなあじがした。

そして、ぼくは、家に帰った。

だけど、僕は、まだ出雲にいるよ、ずっと神様とかみさまと一緒に。